

科目名	在宅看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-44. H N	単位数	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30047	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田 まり子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕  様々な対象の在宅ケアを支える制度と社会資源を学修する。事例を中心に、様々な対象に応じた家族支援の方法、援助技術の特徴、社会資源の活用、医療機関・関係職種とのチームワークの重要性と方法を学修する。また、在宅療養の安全対策・災害対応について学修する。さらに、訪問看護の実践について、訪問マナー・訪問看護に必要な記録類、看護過程の展開方法を学修する。  〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの2と5、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>子ども・障がい者の在宅療養を支える制度と社会資源を理解する。</li> <li>在宅ターミナル期の療養者・家族の支援方法を理解する。</li> <li>様々な健康障害を持ちながら在宅生活を希望する療養者・家族の支援方法を理解する。</li> <li>在宅療養者と家族を支援する訪問看護の特徴と訪問看護ステーションの機能を理解する。</li> <li>在宅看護と災害看護を理解する。</li> <li>訪問看護のマナーと訪問看護の看護過程の展開方法・在宅看護実習在宅特有の援助技術のポイントが理解する。</li> </ol>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	子どもの在宅療養を支える制度と社会資源			子どもを対象とする公費負担医療助成、子どもの在宅療養を支える手当・年金						
第2回	障がい者の在宅療養を支える制度と社会資源			障害者に対する施策の歴史、障害者手帳、障害者雇用促進法、障害者総合支援法、障害者を支える手当・年金						
第3回	在宅ターミナル期の援助			在宅ターミナルの対象者・条件、ターミナル期に必要な援助、遺族へのケア				DVD・課題解決型学修		
第4回	在宅ターミナル期の援助、在宅ケアにおける感染症			遺族へのケア、在宅療養者の感染症、感染症の予防対策				ディスカッション含む		
第5回	在宅で療養している成人期の難病療養者の看護			在宅生活に不安をもち退院するALS療養者の退院直後～1か月後の看護、気管切開術の再入院～退院2か月後の看護				課題解決型学修		
第6回	在宅での生活を希望する精神障がい者の看護			在宅生活を希望する精神障がい者の退院直後～4か月後の看護				課題解決型学修		
第7回	重度心身障害を持ちながら地域で生活する小児の看護			在宅生活を希望する家族とともに退院直後～1か月後の看護、長期療養に向けた多職種連携やレスパイトケア						
第8回	在宅での生活を希望する脳卒中後遺症のある高齢者の看護			退院前の合同カンファレンス、退院直後～2週間後の看護				課題解決型学修		
第9回	日中独居の認知症療養者の看護			地域包括支援センターからの情報提供～初回訪問とその後の看護 地域ケア会議				課題解決型学修		
第10回	在宅療養と災害看護			在宅看護における健康危機・災害対策、地域包括ケアシステムに於ける健康危機・災害対策						
第11回	在宅療養と災害看護			訪問看護師による健康危機・災害時対応、訪問看護事業所における災害時のBCP						
第12回	在宅の援助技術 (1)			胃瘻栄養法・中心静脈栄養法の在宅看護のポイント						
第13回	在宅の援助技術 (2)			摘便・在宅酸素療法・在宅CAPD療法の在宅看護のポイント						
第14回	初回訪問のマナー、訪問看護記録			訪問時のマナーの実際、訪問看護に必要な記録類、介護保険利用時に必要な記録類						
第15回	訪問看護の看護過程の展開方法			訪問看護計画に必要な情報源、情報の整理、アセスメント、目標設定、計画立案、評価の基準、修正のポイント						
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者につき、定期試験(60点)：授業内容の理解度を問う。レポート(30点)：課題に対し適切に調べ整理して記述しているか。学習ポートフォリオ(10点)：学習計画と振り返りができているか、自己及び他者からの学習の成果が時系列で整理されているか。									
課題等	課題レポートの提出日時は厳守すること。課題レポートはその都度返却するが、内容が不十分な場合は再提出とする。									
事前事後学修	課題レポートの事前事後学修時間の目安は60分程度で第3回授業の翌々日12:00迄の提出。									
教材教科書参考書	1. ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア、メディカ出版、2022(978-4-8404-7543-3) 第7版 2. 写真でわかる訪問看護アドバンス、インターメディカ、2021(978-4-89996-411-7) 新訂版 3. 他随時、プリント配布、参考文献を紹介する。※1及び2は、2年次在宅看護論で購入済み									
留意点	主体的な学習方法として、元ポートフォリオの作成や学習資料の共有化の機会を設けている。自己の学習目標を明確にし、月ごとの学習計画を立て、振り返りをしながら主体的に学修を積み上げていくこと。在宅看護方法論の修得は在宅看護実習の必須要件である。									

科目名	在宅看護援助論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-45. H N	単位数	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30048	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田 まり子 (実務経験のある教員)				授業 形態	演習	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	在宅療養者・家族の療養環境の安全と災害時の看護をプロジェクト型学習で学修する。さらに、それらの知識を在宅で療養する様々な対象及び家族の看護過程展開の演習に応用し学びを深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2と5、カリキュラムポリシーの3と6に関連している。									
到達 目標	1. 在宅療養者・家族の療養環境の安全と災害時の看護を理解する。									
	2. 様々な事例の訪問看護計画を立案し、援助方法を演習を通して理解する。 3. 在宅で行われる援助技術の特徴や工夫を演習で応用し理解する。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	在宅療養者・家族の療養環境の安全と災害時の看護		在宅療養者・家族の災害時(療養環境の安全含む)の看護について、個人単位でのプロジェクト型学習を行いリーフレットを作成する						プロジェクト型演習	
第2回	在宅療養者・家族の療養環境の安全と災害時の看護		在宅療養者・家族の災害時(療養環境の安全含む)の看護について、個人単位でのプロジェクト型学習を行いリーフレットを作成する						プロジェクト型演習	
第3回	在宅療養者・家族の療養環境の安全と災害時の看護		在宅療養者・家族の災害時(療養環境の安全含む)の看護について、個人単位でのプロジェクト型学習を行いリーフレットを作成する						プロジェクト型演習	
第4回	在宅療養者・家族の療養環境の安全と災害時の看護		在宅療養者・家族の災害時(療養環境の安全含む)の看護について、個人単位でのプロジェクト型学習を行いリーフレットを作成する						プロジェクト型演習	
第5回	在宅療養者・家族の療養環境の安全と災害時の看護		在宅療養者・家族の災害時(療養環境の安全含む)の看護について、個人単位でのプロジェクト型学習を行いリーフレットを作成し、発表する。						プロジェクト型演習	
第6回	在宅で療養する様々な対象及び家族の看護		在宅で療養する様々な対象と家族の看護について、グループ演習で8場面で1場面の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案						グループディスカッション	
第7回	在宅で療養する様々な対象及び家族の看護		在宅で療養する様々な対象と家族の看護について、グループ演習で8場面で1場面の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案						グループディスカッション	
第8回	在宅で療養する様々な対象及び家族の看護		在宅で療養する様々な対象と家族の看護について、グループ演習で8場面で1場面の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案						グループディスカッション	
第9回	在宅で療養する様々な対象及び家族の看護		在宅で療養する様々な対象と家族の看護について、グループ演習で8場面で1場面の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案						グループディスカッション	
第10回	在宅で療養する様々な対象及び家族の看護		在宅で療養する様々な対象と家族の看護について、グループ演習で8場面で1場面の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案						グループディスカッション	
第11回	在宅で療養する様々な対象及び家族の看護(リハーサル)		在宅で療養する様々な対象と家族の看護について、グループ演習で8場面で1場面の看護計画を立案、ロールプレイのリハーサルと修正						プレロールプレイ	
第12回	在宅で療養する様々な対象及び家族の看護(リハーサル)		在宅で療養する様々な対象と家族の看護について、グループ演習で8場面で1場面の看護計画を立案、ロールプレイのリハーサルと修正						プレロールプレイ	
第13回	在宅で療養する様々な対象及び家族の看護(グループ発表)		在宅で療養する様々な対象と家族の看護について、グループ演習で8場面で1場面の看護計画を立案、ロールプレイ、意見交換、振り返り						プレゼンテーション	
第14回	在宅で療養する様々な対象及び家族の看護(グループ発表)		在宅で療養する様々な対象と家族の看護について、グループ演習で8場面で1場面の看護計画を立案、ロールプレイ、意見交換、振り返り						プレゼンテーション	
第15回	在宅で療養する様々な対象及び家族の看護(グループ発表)・まとめ		在宅で療養する様々な対象と家族の看護について、グループ演習で8場面で1場面の看護計画を立案、ロールプレイ、意見交換、振り返り・まとめ						プレゼンテーション	
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者につき、リーフレットの妥当性(30点)、演習への参加状況・看護計画の妥当性(50点)：情報の整理・アセスメント・看護計画の妥当性。演習での意見・発言・学習物を演習のルーブリック評価基準に照らし評価。プロジェクト型演習の振り返り評価及びグループ演習発表の振り返り評価のレポートなど(20点) ※客観テストは行わないが第15回終了後に60分程度で講義全体の振り返りのまとめを行う。									
課題等	各グループワーク提出資料の提出日時は厳守すること。まとめを含む詳細の日時は初回授業日に提示する。									
事前事後 学習	グループディスカッションに必要な事前・事後学習を十分行うこと。									
教材 教科書 参考書	1. ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア, メディカ出版, 2022(978-4-8404-7543-3) 第7版 2. 写真でわかる訪問看護アドバンス, インターメディア, 2021(978-4-89996-411-7) 新訂版 3. 他随時、プリント配布、参考文献を紹介する。※1及び2は、2年次在宅看護論で購入済み									
留意点	演習では、各自の責任を果たしながら主体的に取り組むことが重要。1～5回目は個別のプロジェクト型演習、第6回目以降はプロジェクト型演習での学びを様々な事例のグループ演習に応用していく。グループ演習での援助においては、基礎看護学で学んだ看護技術を在宅看護に応用していくため、基礎看護技術の復習が必須である。在宅看護援助論の修得は在宅看護実習の必須要件である。									

科目名	地域連携論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-36.S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30046		15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名	川村泰子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨]  健康な生活を送るための支援において、地域における多職種との連携の実際について説明し、多職種連携の考え方、実態と課題、及び方法を考える。  [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]  ディプロマポリシーの3、6に関連し、カリキュラムポリシー教育方法の3に関連している。</p>									
到達目標	1. 多職種連携の理論・動向・実際について理解できる。 2. 多職種連携の課題と方法について理解できる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	オリエンテーション 地域連携の基礎理論		日本の医療の背景・特徴を理解し、ケアサイクル論を学ぶ							
第2回	多職種連携の動向と課題		多職種連携・協働の推進に向けた政策の動向を理解する							
第3回	ネットワーク化と調整活動		地域ケアにおけるネットワーク化と調整活動：母子を対象としたシステム							
第4回	ネットワーク化と調整活動		地域ケアにおけるネットワーク化と調整活動：高齢者を対象としたシステム							
第5回	地域連携の実践と方法 (1)		地域包括ケアと多職種連携							
第6回	地域連携の実践と方法 (2)		地域ケア会議の意義と方法						動画	
第7回	地域連携の今後と課題 (1)		退院支援における看護職の役割						グループワーク ディスカッション	
第8回	地域連携の今後と課題 (2)		地域包括ケアシステムの展望を理解する						グループワーク ディスカッション プレゼンテーション	
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準	1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。 3) 課題レポート：20% 4) 定期試験：75%									
課題等	感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書を、読んでみることをお勧めする。									
教材教科書参考書	1) 高橋敏士、武藤正樹：地域連携論、オーム社、2013 ISBN978-4-274-21464-6 2) 国民衛生の動向、厚生労働統計協会、2021/2022 授業の中で、随時、参考図書を紹介する。									
留意点	1) 授業で紹介された文献などの自己学習による積み重ねが重要である。 2) 授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かす。 3) 社会の動きや出来事など、日頃のニュースにも関心を持ち、情報を的確に把握することが不可欠である。									

科目名	成人看護学Ⅳ		科目ナンバリング	N-NP NP 2-11. H N	単位数	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30044	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	館 山 光 子(実務経験のある教員) 村 岡 祐 介(実務経験のある教員)				授業 形態	講義	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>手術による侵襲および患者の心理状態をふまえ、術後合併症予防および術後の身体機能の変化に応じたセルフケア能力を獲得するための援助について学ぶ。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの3、4、5、6、およびカリキュラムポリシーの3に関連する。</p>									
到達目標	<p>1. 患者の病態・術式・身体状況から、術後合併症の早期発見・予防・回復に向けた看護援助を考えることができる。</p> <p>2. 周術期患者の情報を総合的に判断し、エビデンスに基づいた看護を説明できる。</p> <p>3. 事例患者の看護過程展開を通し、患者の回復支援に必要な援助を計画できる。</p> <p>4. 患者と看護師役として経験する実技演習を通して、周術期における看護師の役割と責任について考えることができる。</p>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題	授 業 内 容						備 考		
第1回	術後合併症予防の援助 1	手術を受けた患者の情報収集とアセスメント 主要な術後合併症の予防と援助						館山		
第2回	ストーマ造設術を受ける患者の看護	ストーマ造設術を受ける患者の理解						館山		
第3回		ストーマ造設術を受ける患者の理解						館山		
第4回		看護過程展開（術前） 看護計画立案						PBL グループワーク ディスカッション		
第5回		看護過程展開（術後） 術後1日目/ストーマケアの援助計画作成						PBL グループワーク ディスカッション		
第6回		ストーマケアの援助実施 1 援助計画の修正						PBL 実技演習		
第7回		ストーマケアの援助実施 2 実施記録の記載						PBL 実技演習		
第8回		看護過程展開（術後）術後7日目/評価						PBL グループワーク ディスカッション		
第9回		人工股関節置換術を受ける患者の看護	人工股関節置換術を受ける患者の理解						村岡	
第10回	看護過程展開（術前） 看護計画立案						PBL グループワーク ディスカッション			
第11回	看護過程展開（術後） 術後1日目/離床の援助計画作成						PBL グループワーク ディスカッション			
第12回	離床の援助実施 1 援助計画の修正						PBL 実技演習			
第13回	離床の援助実施 2 実施記録の記載						PBL 実技演習			
第14回	看護過程展開（術後）術後7日目/評価						PBL グループワーク ディスカッション			
第15回	まとめ	授業の総括						館山		
評価方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者を評価対象とする。 筆記試験(40%) 課題(40%) 実技演習・グループワークの参加度(20%)									
課題等	第2回～第8回(課題1)、第9回～第14回(課題2)で提示する記録物(患者情報・統合アセスメント・看護計画・実施記録)									
事前事後学修	効果的なグループワークをにするため個人の事前学習を要する。 事前・事後学修時間の目安:1日あたり1時間程度。									
教材 教科書 参考書	<p>&lt;教科書&gt;</p> <p>・林 直子、佐藤まゆみ編集:成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術看護 改訂第3版 南江堂 ISBN 978-4-524-24163-7</p> <p>・佐藤まゆみ、林 直子編集:成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護・クリティカルケア 改訂第3版 南江堂 ISBN 978-4-524-24164-4</p> <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>・野島真奈美、林 直子、佐藤まゆみ、鈴木久美編集:成人看護学 成人看護技術 改訂第2版 南江堂 ISBN 978-4-524-25418-7</p>									
留意点	エビデンスに基づいた援助に結び付けるため既習科目と関連させて理解を深めること。									

科目名	老年看護援助論		科目ナンバリング	N-NP 2-14. H N		単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期	
			科目コード	N30020		時間	60時間					
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	佐藤 厚子、小野 綾 (実務経験のある教員)				授業 形態	演習	複数		
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 高齢者の健康と自立を支える為の基本的援助と、加齢が高齢者に与える影響を理解し、援助技術に必要な看護の知識について学習する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3, 4, 5に関連する。 カリキュラムポリシーの3, 8, 9に関連する。</p>											
到達 目標	<p>1. 老年看護学概論と老年看護方法論で学んだ高齢者の特徴を基盤とし、加齢が高齢者にあたえる健康への影響について理解する。</p> <p>2. 自立を支援する視点を重視しつつ、高齢者の個別性に応じたアセスメントを学ぶ。</p> <p>3. 加齢による生活の変化とセルフケア支援の援助方法を習得する。</p> <p>4. 高齢者看護の特徴に基づいた看護過程の展開ができる。</p>											
授 業 計 画												
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考	
第1回	疾患・障害のある 高齢者の看護	感染症と発熱(講義)				第16回	高齢者の生活機能 アセスメント演習	(第15回につづく)				
第2回		呼吸器系疾患(講義)				第17回		【ユニフォーム着用】(演習) 食事介助	グループ ワーク 演習提出物あり			
第3回		循環器系疾患(講義)				第18回						
第4回		消化器系疾患(講義)				第19回		【ユニフォーム着用】(演習) ユマニチュード	グループ ワーク 演習提出物あり			
第5回		内分泌系疾患(講義)				第20回		コミュニケーション 技術演習				
第6回		泌尿器系疾患(講義)				第21回			パーソンセンタードケア (教室内演習)	PBL 演習提出物あり		
第7回		褥瘡(講義と学内演習)			PBL 提出物あり	第22回		看護過程の展開 (事例展開)	高齢者看護における看護過程展 開の特徴(講義)			PBL 演習提出物あり
第8回						第23回			情報収集 (以下全て教室内演習)			
第9回		脳血管疾患				第24回			情報分析			
第10回		パーキンソン病、パーキンソン症候群				第25回			関連図作成、アセスメント要約			
第11回	各種検査、薬物療法、放射線療法、化学療法、手術療法			終了後 提出物あり	第26回	計画立案						
第12回	検査、治療を受ける 高齢者	高齢者によくみられる悪性腫瘍とその看護 終末期にある高齢者とその家族の看護				第27回						
第13回	高齢者の生活機能 アセスメント演習	【ユニフォーム着用】(演習) 高齢者疑似体験と移動介助 転倒予防対策			演習提出物あり	第28回						
第14回						第29回						
第15回		排泄機能アセスメントと排泄ケア(講義) (体験課題あり)			演習提出物あり	第30回						
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席を以って評価の対象とします。 試験50%、演習提出物50% 演習評価はルーブリックを使用します											
課題等	レポートは必ず提出してください。提出されたレポートは採点后に指導とともに返却を行います。											
事前事後 学修	自己予習が行われることを前提として授業を行います。必ず予習を行い授業に臨んでください。											
教材 教科書 参考書	<p>【教科書】</p> <p>1. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子(著者代表)、医学書院 (ISBN 9784260031868)</p> <p>2. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」鳥羽研二(著者代表)、医学書院 (ISBN 9784260031721)</p> <p>3. 「根拠と事故防止からみた老年看護技術」亀井智子(編集)、医学書院 (ISBN 9784260024983)</p> <p>4. 人体の構造、人体の機能で使用した教科書</p>											
留意点	状況によりteamsによる双方向的な形態を採用します。全出席を望みます。											

科目名	小児看護援助論		科目ナンバリング	N-NP 2-17. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期															
	看護実践科目	必修	科目コード	N30023		60時間																			
区分	看護実践科目	必修	担当者名	齊 藤 史 恵 木 田 優 子 (実務経験のある教員)			授業 形態	3年	開講 学期	前期															
	アクティブラーニング	有																							
授業の概要	TBL(チーム基盤型学習)において反転授業を取り入れ、グループダイナミクスを活用した学生主体の演習を展開する授業である。小児看護学の知識と技術を統合し、看護実践へ適用するための能力を養う。また、主体的に学ぶ姿勢と、臨時的な判断能力・思考力を育成することをねらいとしている。 (ディプロマポリシー2, 3, 4, 5, 6に関連し、カリキュラムポリシー3に関連している)																								
到達目標	1. 疾患別の看護援助方法をその根拠となる理論をもとに理解できる 2. 小児の発達段階をふまえて個別性に応じた看護計画を立案できる 3. 小児看護に必要な実践的な看護技術を習得できる																								
授 業 計 画																									
回	主 題	授業内容	備考	回	主 題	授業内容	備考																		
第1回	授業ガイダンス けいれん性疾患 の看護 <乳児>	授業の説明、確認テスト (IRAT, GRATの実施)、事例 に基づく応用演習課題	事前課題 反転学習 TBL	第16回	第3学習ユニット 血液・造血器 疾患の看護 (検査時のプレパ レーション) <学童>	①事例に基づく応用演習課題の提示とグループワーク(1)、ディスカッション	課題																		
第2回			課題	第17回		②応用演習課題の提示とグループワーク(2)ポスターによるプレゼンテーション(看護問題、看護計画)とディスカッション	グループワーク プレゼン テーショ ン ディスカ ッション																		
第3回	第1学習ユニット <幼児> 消化器疾患 の看護 (点滴、シネ固定、 臀部の清潔、 おむつ交換)	①確認テスト(IRAT, GRATの実施)、ミニ講義とフィードバック、事例に基づく応用演習課題の提示とグループワーク(1)、ディスカッション	反転学習 TBL	第18回		第4学習ユニット 先天性心疾患 の看護 (循環器の観察、 身体計測、経管栄 養、調乳) <乳児>	③技術トレーニング、振り返りと応用テスト	課題																	
第4回			課題	第19回				①確認テスト(IRAT, GRATの実施)、ミニ講義とフィードバック、事例に基づく応用演習課題の提示とグループワーク(1)、ディスカッション	反転学習 TBL	第20回	②応用演習課題の提示とグループワーク(2)ポスターによるプレゼンテーション(看護問題、看護計画)とディスカッション	課題													
第5回			グループ ワーク プレゼン テーショ ン ディスカ ッション	第21回					③技術トレーニング、振り返りと応用テスト	グループ ワーク プレゼン テーショ ン ディスカ ッション		第22回	①確認テスト(IRAT, GRATの実施)、ミニ講義とフィードバック、事例に基づく応用演習課題の提示とグループワーク(1)、ディスカッション	レポート											
第6回			課題	第23回						②応用演習課題の提示とグループワーク(2)ポスターによるプレゼンテーション(看護問題、看護計画)とディスカッション		課題		第24回	③技術トレーニング、振り返りと応用テスト	反転学習 TBL									
第7回			レポート	第25回								①確認テスト(IRAT, GRATの実施)、ミニ講義とフィードバック、事例に基づく応用演習課題の提示とグループワーク(1)、ディスカッション		反転学習 TBL		第26回	②応用演習課題の提示とグループワーク(2)ポスターによるプレゼンテーション(看護問題、看護計画)とディスカッション	課題							
第8回			課題	第27回										③技術トレーニング、振り返りと応用テスト		グループ ワーク プレゼン テーショ ン ディスカ ッション		第28回	①確認テスト(IRAT, GRATの実施)、ミニ講義とフィードバック、事例に基づく応用演習課題の提示とグループワーク(1)、ディスカッション	レポート					
第9回			課題	第29回												②応用演習課題の提示とグループワーク(2)ポスターによるプレゼンテーション(看護問題、看護計画)とディスカッション		グループ ワーク プレゼン テーショ ン ディスカ ッション		第30回	③技術トレーニング、振り返りと応用テスト	反転学習 TBL			
第10回			レポート																						
第11回	課題																								
第12回	反転学習 TBL																								
第13回	課題																								
第14回	グループ ワーク プレゼン テーショ ン ディスカ ッション																								
第15回	反転学習 TBL																								
小グループを形成してグループワークにて演習を実施する。事前学習を行い、準備確認テストを受けたのちに事例に基づいた演習課題へと進む。演習はディスカッション、プレゼンテーション、演習の計画立案と実施、事後検討会、確認テスト等が含まれる。																									
評価方法及び評価基準	出席が3分の2以上であることが評価の条件である。提出課題が提出されない場合、評価対象外になるおそれがある。事前確認テスト40点、事後テスト20点、演習課題・レポート(ルーブリック等の評価)30点、受講態度10点(個人による点数とチームによる点数、ピア評価も含む)																								
課題等	ほぼ毎回で課題がある。チームにおける学習のため、自主的に課題をやってこない場合、授業(ワーク)に参加することは困難である。																								
事前事後課題	既存の学習の確認、実習の授業における関連文献からレポート提出に必要な幅広い学習に必要なものまで準備学習時間の目安：1日当たり1時間、週当たり3時間ほど																								
教材教科書参考書	現在までの授業で使用したテキスト、プリントなどの資料を活用すること。 教科書：系統看護学講座専門22「小児看護学(1)」, 専門23「小児看護学(2)」, 医学書院 ISBN 978-4-260-03860-7, 978-4-260-03860-9 サブ教科書：「ナースとコメディカルのための小児科学」 日本小児医事出版社 ISBN 978-4-88924-256-0 「写真でわかる小児看護技術アドバンス」 インターメディカ ISBN 978-4-89996-409-4																								
留意点	小児看護学概論、小児看護方法論、疾病論(小児科学)等の知識を統合して実施する授業なので、幅広い復習が必要である。演習は主体的な学習活動である。個人学習という学習責任を果たさないとグループによるワークが進まない。グループワーク、個人課題にかかわらず、準備不足の時には授業への参加を認めないことがある。提出物の期限は厳守すること。ほぼ毎回テストがあるため欠席には注意する。この単位を修得しないと臨床実習は履修できない。																								

科目名	母性看護援助論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-23. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30026		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬 富士子、菅原 光子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	オムニバス	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 母性看護方法論で学んだマタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期）にある女性、胎児・新生児期にある対象者の健康問題を総合的に捉え、正常経過の看護、異常時の看護についての基本的知識をもとに、母性看護の援助の実践を学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの5.6.7.8.9に関連し、カリキュラムポリシーの6Iに関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期）にある女性、新生児の健康診査、健康教育・援助を行うことができる。</li> <li>2. 母性看護学に必要な看護技術ができる。</li> <li>2. 事例の看護過程展開ができる。</li> <li>3. 保健指導を理解し、実践の準備ができる</li> </ol>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）				備 考			
第1回	妊娠期の看護		妊婦健康診査、保健指導				大瀬4/13(木)5限			
第2回	分娩期の看護		分娩第1期～第4期の看護、胎盤観察、異常時の看護				大瀬4/20(木)5限			
第3回	新生児期の看護		出生直後の新生児のケア、新生児蘇生法				大瀬5/11(木)5限			
第4回	新生児期の看護		出生当日～生後5日の看護				大瀬 5/18(木)5限			
第5回	褥婦の看護		分娩当日～分娩後5日の看護、帝王切開の看護				大瀬 5/25(木)5限			
第6回	褥婦の看護		母乳育児支援とは				菅原6/1(木)5限			
第7回	家庭訪問		家庭訪問の実際、育児支援とは				菅原6/8(木)5限			
第8回	産後健診		2週間健診（母乳外来）、1か月健診				大瀬6/15(木)5限			
第9回	産褥期の看護		産褥期の保健指導				大瀬6/22(木)5限			
第10回	母性看護技術		ABグループ演習 妊婦健康診査、褥婦診察	CDグループ 看護過程展開	EFグループ 保健指導パンフレット作成	大瀬・菅原 6/19(月)1限 グループワーク				
第11回	母性看護技術		ABグループ演習 新生児診察・清潔	CDグループ 看護過程展開	EFグループ 保健指導パンフレット作成	大瀬・菅原 6/19(月)2限 グループワーク				
第12回	母性看護技術		ABグループ 看護過程展開	CDグループ 保健指導 パンフレット作成	EFグループ 妊婦健康診査、褥婦診察	大瀬・菅原 7/3(月)1限 グループワーク				
第13回	母性看護技術		ABグループ 看護過程展開	CDグループ 保健指導 パンフレット作成	EFグループ 新生児診察・清潔	大瀬・菅原 7/3(月)2限 グループワーク				
第14回	母性看護技術		ABグループ 保健指導 パンフレット作成	CDグループ演習 妊婦健康診査、褥婦診察	EFグループ 看護過程展開	大瀬・菅原 7/7(金)1限 グループワーク				
第15回	母性看護技術		ABグループ 保健指導 パンフレット作成	CDグループ演習 新生児診察・清潔	EFグループ 看護過程展開	大瀬・菅原 7/7(金)2限 グループワーク				
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席により評価の対象となります。 筆記試験50% 提出物 20% 演習15% 授業シートのコメント15%									
課題等	看護過程展開									
事前事後学修	母性看護方法論を復習して下さい。 授業で学んだ技術は母性看護学実習で実施しますので、練習しておきましょう。									
教材教科書参考書	教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院（母性看護法論で使用している） ISBN978-4-260-04223-9 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ ISBN978-4-89996-410-0 参考書：病気がみえる 産科 MEDIC MEDIA ISBN978-4-89632-713-7									
留意点	母性看護方法論では母性看護の核となる妊娠・分娩・産褥・胎児期・新生児期の根拠となる理論を学びましたが、母性看護援助論では母性看護、母性看護技術を学びます。									

科目名	精神看護援助論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-28. H N	単位数	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30029	時間	30時間				
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	菅原大輔 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 ひとりひとりの精神障がい者のおかれた状況や心の問題に深い理解を示し、その人に適した援助をするための方策や自立を支える生活支援の方法をグループワークを通して学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4・5に関連し、カリキュラムポリシーの3・8に関連している。									
到達 目標	1、困難な局面で援助を提供する方法を考えることができる。 2、各種の病態像をイメージし、病状に多面的な理解があることを学ぶ。 3、看護過程の展開の実際を理解し実施できる。 4、プロセスレコードから言動を振り返り、対象者の必要な援助を考えることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	看護過程の展開方法			基本情報のまとめ方・情報の分析方法・問題点の抽出・優先順位・看護計画の立案について						
第2回	プロセスレコード			プロセスレコードの活用目的・考察視点・記載方法など						
第3回	統合失調症における看護過程の展開①			統合失調症における事例の説明					グループワーク	
第4回	統合失調症における看護過程の展開②			基本情報の整理					グループワーク	
第5回	統合失調症における看護過程の展開③			情報の分析					グループワーク	
第6回	統合失調症における看護過程の展開④			問題点の抽出および優先順位の決定					グループワーク	
第7回	統合失調症における看護過程の展開⑤			看護計画の立案					グループワーク	
第8回	統合失調症における看護過程の展開⑥			看護過程の発表および解説					グループワーク	
第9回	双極性障害における看護過程の展開①			双極性障害における事例の説明					グループワーク	
第10回	双極性障害における看護過程の展開②			基本情報の整理					グループワーク	
第11回	双極性障害における看護過程の展開③			情報の分析					グループワーク	
第12回	双極性障害における看護過程の展開④			問題点の抽出および優先順位の決定					グループワーク	
第13回	双極性障害における看護過程の展開⑤			看護計画の立案					グループワーク	
第14回	双極性障害における看護過程の展開⑥			看護過程の発表および解説					グループワーク	
第15回	まとめ			授業の総括					課題提出	
評価 方法 及び 評価 基準	課題（看護過程）の提出（50点）、定期試験の成績（50点）を合計して評価（100点）する									
課題等	演習時間内に看護過程の展開が終了できないグループは次回までの課題とする。									
事前事後 学修	看護過程の展開が円滑にできるよう精神看護方法論を振り返り各自で復習しておくこと。 学習時間の目安：1日あたり30分以上。									
教材 教科書 参考書	教科書： 岩崎弥生／渡邊博幸：新体系、看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護、メジカルフレンド社（購入済み） ISBN:978-4-8392-3306-8 阿保順子他：統合失調症急性期看護学、すぴか書房 ISBN:978-4-902630-30-5（購入済み） グループワークでは講義で使用した資料や教科書を活用するので準備すること。									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出期限を厳守すること。</li> <li>・演習では学生同士の積極的な意見交換をすること。</li> <li>・精神看護学実習に直結した学習になるので自己学習を怠らないこと。</li> </ul>									



科目名	国際看護論		科目ナンバリング	N-NP 2-24. S N	単位数	1単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
	看護実践科目	選択	科目コード	N30012	時間	15時間				
区分	アクティブラーニング	有	担当者名	川村 泰子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>国際化が進む中で、看護の分野においても外国人の住民や患者に支援する機会が増加している。看護職として日本の現状・世界が抱える貧困や健康格差などを理解し、国際的な視点から看護をとらえ、グローバル化された社会における看護職の役割について学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシー-2, 5, 7に関連し、カリキュラムポリシー-3に関連している。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 諸外国の保健医療の現状が理解できる</li> <li>2. 開発途上国の現状と日本の国際協力の仕組みについて理解できる</li> <li>3. 異文化を理解し、日本における外国人に対する看護を考えることができる</li> <li>4. 国内外における国際看護活動が理解できる</li> </ol>									
現状を										
回	主 題		授業内容					備考		
第1回	国際看護と看護のグローバリゼーション		国際看護活動の概要 国際看護活動の歴史と現状から看護職に求められているもの							
第2回	健康格差と世界の貧困		健康格差と世界の貧困					ディスカッション		
第3回	世界の保健医療・日本の国際協力		世界の保健医療を支える機関 日本の国際協力							
第4回	グローバル化する医療の現場		多様性の理解 文化と健康・生活・看護					グループワーク		
第5回	紛争と難民・災害と看護		紛争と難民、感染症・災害と看護					ディスカッション		
第6回	地域における在留外国人への支援		地域における在留外国人への支援の実際を理解する					グループワーク		
第7回	地域における在留外国人への支援		地域における在留外国人への支援の実際を理解する					プレゼンテーション		
第8回	国際的な看護の実際		国際保健医療協力活動における看護者の役割を考える					ディスカッション		
評価 方法 及び 評価 基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、レポート（30%）、定期試験を組み合わせて総合的に評価する。</li> <li>2) リフレクションペーパー：すべての授業終了後に提出することで、5点を加算する。</li> </ol>									
課題等	リフレクションペーパー、レポート等は、返却しない。									
事前事 後学修	授業で紹介する参考図書は読むこと。									
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書：大橋一友編集 国際化と看護 メディカ出版 2023 ISBN 978-4-8404-6593-9</li> <li>・参考図書：久間圭子 日本の看護論 比較文化的考察 日本看護協会出版会 1998 ISBN: 9784818006287</li> <li>・参考図書：中田正一 国際協力の新しい風 岩波新書 1990 ISBN: 9784004301301</li> </ul>									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業で紹介された文献を読むなど、自己学習をする。</li> <li>2) 国際社会に関心を持って、ニュース等を読むことをすすめる。</li> </ol>									

科目名	看護管理学		科目ナンバリング	N-NP 2-25. H N	単位数	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30010	時間	15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	小林 朱実 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	無								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>看護専門職として必要なマネジメントの基礎的知識と、組織的なマネジメントのあり方、それを支える知識を学ぶ。看護管理の基本的な理論、質評価、人材育成、制度・政策、チーム医療等、実践例を交えて学習する。本コースでは、今後の実習・臨床での実践に向けて、臨床の場を管理的視点で多角的にとらえることができる基礎能力の習得を目指す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>カリキュラムポリシー3、ディプロマポリシー3・6と関連しています。</p>									
到達目標	<p>講義等を通して、以下の目標の達成を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理に必要な要素、プロセスを学ぶ。</li> <li>2. 看護専門職として、ケアのマネジメントに必要な知識について理解を深める。</li> <li>3. 看護ケア提供組織のマネジメントに必要な知識について理解を深める。</li> <li>4. 医療制度、政策について理解を深める。</li> <li>5. 看護職として、自己のキャリア発達を考えることができる。</li> </ol>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	看護マネジメントの概要			看護管理学とは、マネジメントプロセスとサイクル、看護サービス、マネジメントの変遷						
第2回	ケアのマネジメントと看護職の機能			看護職の機能、チーム医療、看護業務とマネジメント、看護職の健康管理						
第3回	看護サービスのマネジメント			組織と組織構造、看護の組織化、看護ケア提供システム、労働環境						
第4回	患者の権利の尊重と看護を取り巻く諸制度			患者の権利、インフォームドコンセント、意思決定支援、看護職の職業倫理、看護職と法・制度、医療制度						
第5回	医療・看護の質			安全管理、看護の質評価、目標管理						
第6回	資源管理と情報のマネジメント			施設・設備環境、物的資源管理、臨床における情報管理、情報の伝達・共有・活用						
第7回	リーダーシップとマネジメント			リーダーシップスタイル、グループダイナミクスの基礎知識 エンパワーメント、変化と変革						
第8回	人材育成とプロフェッション			看護の専門職性、組織における人材育成、看護職の教育制度、新人看護職員研修制度						
評価方法及び評価基準	授業への参加度10%、課題提出20%、筆記試験70%で評価する。									
課題等	課題のテーマは講義中に提示する。科目開講期間内に返却する。									
事前事後学修	講義の理解を深めるために、事前に教科書の該当部分に目を通して参加してください。 事前準備の目安：30分程度 受講後は、テキスト・配布資料を使用し復習してください。									
教材教科書参考書	上泉和子, 小山秀夫, 寛淳夫, 鄭佳紅：系統看護学講座統合分野「看護管理」, 医学書院, 2018, ISDN ISBN978-4-260-03182-0									
留意点	学習カードに質問欄を作り、次回講義時に回答します。									

科目名	健康危機管理論 (災害看護含む)		科目ナンバリング	N-NP NI 2-34. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目コード	N30038		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	中 尾 八重子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>地域における健康危機管理の概念および保健所・市町村の保健部門の管理体制について理解し、健康危機管理活動の中での看護職の役割について学ぶ。災害発生前の計画立案、災害発生時の保健活動、災害予防活動、近年の公衆衛生の課題である感染危機管理について学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの4、6に関連し、カリキュラムポリシー教育課程3、4に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康危機管理の概念・目的について説明できる。</li> <li>健康危機管理の制度・システムについて説明できる。</li> <li>健康危機管理活動における看護職の役割について説明できる。</li> <li>避難所の生活と必要な支援の演習を通し、実際の災害時の理解とともに新たな気づきを述べるができる。</li> </ol>									
回				授業内容（授業時間外の学修を含む）				備考		
第1回	健康危機管理とは			健康危機管理の概念・目的 災害とは、感染症とは						
第2回	災害サイクルと看護活動			災害看護とは 災害サイクル 看護の役割						
第3回	災害発生と社会の対応や仕組み			災害に関する制度、情報の伝達の仕組み、支援体制と災害関係機関						
第4回	災害サイクルと保健医療活動			災害サイクルに沿った保健医療活動 ところのケア						
第5回	避難所の生活必要な支援（1）			演習：避難所の生活				グループワーク ディスカッション		
第6回	避難所の生活必要な支援（2）			演習：避難所における支援 課題：新たな気づき（レポート）				グループワーク ディスカッション		
第7回	感染症			結核、AIDS、新型コロナウイルス感染症、予防接種、感染症に関する制度						
第8回	感染症対策			保健所における感染症の健康危機管理・公衆衛生活動						
評価方法及び評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>2/3以上の出席者につき、授業の参加状況、演習、定期試験等から総合的に評価。</li> <li>授業の参加状況：10%</li> <li>演習（レポート）：20%</li> <li>定期試験：70%</li> </ol>									
課題等	レポートおよび感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。 Covid-19感染症などの感染状況に関心をもち、正確な情報を収集する。									
教材教科書参考書	教科書：対象別公衆衛生看護活動 第4版、医学書院、2018 ISBN978-4-260-03187-5 授業の中で、随時、参考図書を紹介する。									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業で紹介された文献などの自己学習による積み重ねが重要である。</li> <li>授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かす。</li> </ol>									

科目名	研究方法論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-46. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N20022		15時間				
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 無	担当者名	中尾八重子、佐藤厚子、大瀬富士子 館山光子、阿部智美 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の 概要	<p>【授業の主旨】 卒業研究および将来の臨床における看護研究に必要とされる基本的な考え方、知識、技術を修得することを目的とする。また、研究のプロセスに対応した、研究テーマの設定から文献検索・収集、研究計画書の作成といった過程の進め方、研究デザインの決定やデータ解析技法の知識と方法をオムニバスで講義する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシー教育方法の1に関連している。</p>									
到達 目標										
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	看護研究の意義		看護研究とは、疑問から研究課題の焦点化						中尾	
第2回	研究過程とは		研究過程、概念枠組みの設定						佐藤	
第3回	文献検索・文献検索		テーマに沿って、関連のある文献を検索、整理・分析し、検討						大瀬	
第4回	倫理的課題		看護研究における倫理的課題						館山	
第5回	質的研究とその進め方		研究デザイン、研究方法、データ収集方法の実際と分析方法						中尾	
第6回	量的研究とその進め方		研究デザイン、研究方法、データ収集方法の実際と分析方法						館山	
第7回	研究論文の読み方・書き方		研究のクリティーク、論文執筆のための知識と実際の進め方						阿部	
第8回	研究計画書・研究発表		研究計画書の作成と発表の仕方						佐藤	
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。 3) 定期試験：試験結果は満点を95%として評価する。</p>									
課題等	レポートの課題は、事前に掲示する。									
事前事後学修	事前学習として、自分の興味や関心をもつテーマについて検索し、論文に目を通しておく。 事後は、ゼミ指導の前に教科書を読み、理解しておく。									
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 Step by Step 第5版、医学書院、2019 ISBN: 9784260030151</li> <li>資料は、そのつど配布する。</li> <li>授業の中で、参考図書を紹介する。</li> </ul>									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健師・助産師・看護師としての臨床経験や臨床看護研究の指導経験をもとに、研究テーマの焦点化、看護研究計画書、立案までのプロセス、結果と考察、プレゼンテーションについて講義を行っている。</li> <li>実習・演習・講義を受講するにあたり、自分が主体的に研究を実施することを念頭に聴講する。</li> </ul>									

科目名	卒業研究		科目ナンバリング	N-NP NI 2-46. H N	単位数	4単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目コード	履修登録届参照	時間	120時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	教授、准教授、講師				授業 形態	演習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] この授業の目的は研究プロセスを経験し、看護基礎、看護実践（基礎・成人・老年・小児・母性・精神・在宅・公衆衛生）の各分野において学んできた知識および技術などを生かして、将来の研究活動や実践活動での研究基盤を構築することを目的とする。年間のスケジュールに応じて、卒業研究指導教員の指導を受けながら研究を実施し、論文を完成させ、口頭発表する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題を明確にできる。</li> <li>2. 研究計画書を作成できる。</li> <li>3. 研究を実施できる（対象が人の場合、倫理的に配慮できる）。</li> <li>4. 口頭発表用抄録を作成し、口頭発表ができる</li> <li>5. 論文を作成し、提出できる。</li> </ol>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）							備考
	《 卒業研究の流れ 》									グループワーク ディベート プレゼンテーション PBL
	1) 研究原案提出（決められた期日に提出）									
	2) 指導教員決定 指導教員が決定した後に、各指導教員と個々に話し合いを行い、研究計画書を立案する。									
	3) 研究課題の提出（決められた期日に提出） 看護学部学務課へ提出する。									
	4) 研究論文草稿提出（決められた期日に提出） 指導教員へ提出する。									
	5) 抄録提出（決められた期日に提出） 看護学部学務課へ提出する。									
	6) 卒業研究発表会オリエンテーション 詳細は後日連絡									
	7) 卒業研究発表会									
	8) 論文提出（決められた期日に提出） 看護学部学務課へ提出する。									
評価方法 及び 評価 基準	研究プロセスを含み、提出論文等により評価する。									
課題等	指導教員に要確認。									
事前事後学修	指導教員に要確認。									
教材 教科書 参考書	教科書等は、「研究方法論」の科目で紹介する。									
留意点	指導教員と密に連絡をとり、それぞれの提出期日を厳守すること。									

科目名	成人看護学実習 I		科目ナンバリング	N-NP 2-39. H N	単位数	3単位	対象学年	3年～4年	開講学期	3年後期～4年前期
			科目コード	N31004	時間	135時間				
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	土屋陽子、井澤美樹子 (実務経験のある教員)			授業形態	実習	回数	
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>健康障害を持ちながら生活していく生活者としての成人および高齢者とその家族を、包括的な視点から理解し、対象の健康状態に応じた療養生活支援に必要な実践能力を養う。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4, 5, 6に関連し、カリキュラムポリシー3, 7, 8, 9に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生活者である対象の健康状態を理解し、健康障害が及ぼす身体的・心理的・社会的影響を理解できる。</li> <li>対象の最良の健康状態を目指し、科学的根拠に基づいた看護を実施できる。</li> <li>保健医療チームにおける看護者の役割と責任、チーム間の連携や協働および関係機関との連携のあり方を理解できる。</li> <li>看護の対象となる人の権利の保障や倫理的配慮について学び、常に相手を尊重する態度を養う。</li> </ol>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容						備考
実習前	臨地実習ガイダンス			臨地実習全体のオリエンテーション（臨地実習開始前） 成人看護学実習 I の概要説明・事前学習について						
1週目	初日	学内オリエンテーション 学内演習		<p>1. 実習計画・内容</p> <p>① 3週間の実習(1・2週目の病棟実習と3週目の学内実習)を行う。 ② 各クールの実習1日目は、学内で実習施設毎のオリエンテーションと演習を行う。 ・実習日程と実習の進め方、留意事項、実習施設に関する説明 ・学内演習：慢性病のある人の事例を用いた対象理解・技術演習 ③ 1週目・2週目に、中間・最終カンファレンスを行う。 ④ 3週目は、学内で実習記録の追加・修正・整理、テーマカンファレンス、実習レポート作成を行う。 ⑤ 連携室の見学実習を行う。</p> <p>2. 実習方法</p> <p>① 慢性期・終末期にある成人期あるいは老年期の患者を原則1名受け持ち、看護展開を展開する。 ② 実習時間：8時30分から16:15分（実習施設や教育上必要と認められる場合は、時間を変更することがある） ③ 実習指導者・教員の指導のもとに実習を行う。 ④ 知識を深め、学びを共有するために、様々なカンファレンスを行う。</p>						
	2～5日目	病棟実習 中間カンファレンス								
2週目	1～4日目	病棟実習 見学実習								
	5日目	病棟実習 最終カンファレンス								
3週目 (学内)	1～4日目	実習記録追加・修正・整理 見学実習レポート作成 テーマカンファレンス準備 (文献検索・資料作成) テーマカンファレンス 個別面接 実習レポート作成								
	最終日	実習記録提出								
評価方法及び評価基準	5/4以上出席することにより評価の対象とする。 その上で、「成人看護学実習」評価表（実習目標到達度80点、実習に臨む姿勢10点、実習ケーレポート10点）に基づき評価する。									
課題等	根拠に基づいた看護をするために、受け持ち患者の状況に合わせ、随時課題を提示する。									
事前事後学修	成人看護学実習事前課題(実習要項記載)は実習開始前までに計画的に行い、活用できるように整理しておくこと。									
教材教科書参考書	授業で使用したテキストや資料など、対象理解や技術提供に必要な教科書や資料を自ら必要性を判断して実習施設に持参して活用すること。									
留意点	チームの一員としての自覚を持ち、主体的な姿勢で臨むこと。時間や体調などのセルフ・マネジメントをすること。									

科目名	成人看護学実習Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP 2-41. H N	単位数 時間	3単位	対象 学年	3年～4年	開講 学期	3年後期 ～ 4年前期
			科目コード	N31006		135時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	館山 光子 村岡 祐介 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 成人・老年期の発達課題や特徴をふまえ、急性期および周手術期、リハビリテーション期にある対象と、その家族の健康問題を総合的に理解し看護の実践方法を学ぶ。対象のセルフケア能力に合わせた健康問題解決のための援助を行うことにより、既習の知識・技術との統合を目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー3・4・5・6、カリキュラムポリシー3に関連する。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生活者である対象の健康状態を理解し、健康障害が及ぼす身体的・心理的・社会的影響を理解できる。</li> <li>対象の最良の健康状態を目指し、科学的根拠に基づいた看護を実施できる。</li> <li>保健医療チームにおける看護者の役割と責任、チーム間の連携や協働および関係機関との連携のあり方を理解できる。</li> <li>看護の対象となる人の権利の保障や倫理的配慮について学び、常に相手を尊重する態度を養う。</li> </ol>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
実習前	臨地実習ガイダンス		臨地実習全体のオリエンテーション (臨地実習開始前) 成人看護学実習Ⅱの概要の説明						実習グループ 全員出席	
実習前	施設オリエンテーション		施設オリエンテーション (臨地実習開始前)						実習グループ 全員出席	
1	学内オリエンテーション、 学内演習、受け持ち患者の決定		学内オリエンテーション：実習の進め方、留意事項、実習病棟概要の説明 学内演習：事例に基づき成人看護技術の演習を行う						実習	
2	受け持ち患者の看護		<ol style="list-style-type: none"> <li>入院中の周手術期患者を原則として1名受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>コミュニケーション技術を適切に用い、患者・家族に接する。</li> <li>患者の入院前の生活や健康障害の特徴、健康障害によってもたらされた生活や社会活動への影響等の情報を収集し、分析・解釈する。</li> <li>優先度を考え看護上の問題を抽出する。</li> <li>受け持ちの患者に適した看護計画を立案する。</li> <li>受け持ちの患者に適した看護ケアを実施する。</li> <li>看護ケアを実施する際には、患者に説明し了解を得る。</li> <li>看護ケアを実施する際には、患者の安全・安楽に配慮して実施する。</li> <li>看護ケアは原理・原則や患者の残存機能を考慮した方法で実施する。</li> <li>ケアの結果と患者の反応から目標の到達度を評価し、必要に応じて計画を修正・追加する。</li> <li>中間カンファレンスおよび最終カンファレンスでは、臨地実習指導者・学生間の意見交換を通して、受け持ち患者に対する援助の妥当性を吟味する。</li> <li>患者が退院後にセルフケア能力を発揮できるように支援する。</li> <li>患者・家族に関わる専門職種間の連携・協働の必要性と看護職の役割や機能を学ぶ。</li> </ol>						実習	
3	受け持ち患者の看護								実習	
4	受け持ち患者の看護		実習							
5	受け持ち患者の看護 中間カンファレンス (ケースカンファレンス)		実習 プレゼンテーション ディスカッション							
6	受け持ち患者の看護		実習							
7	受け持ち患者の看護、見学実習※		実習							
8	受け持ち患者の看護		実習							
9	受け持ち患者の看護 最終カンファレンス		実習 プレゼンテーション ディスカッション							
10	実習のまとめ		学びの共有 (各実習グループ合同) 実習記録を整理し、レポートを作成する。 「看護技術チェックリスト」で自分の技術の習得状況を確認する。	グループワーク プレゼンテーション ディスカッション						
評価方法 及び 評価 基準	4/5以上の出席者について「成人看護学実習評価表」に基づき評価する。									
課題等	各々の受け持ち患者、学習状況によって課題を提示する場合がある。 実習記録は評価が済み次第返却する。									
事前事後 学習	日々の行動予定に合わせて事前学習を行うこと。									
教材 教科書 参考書	授業で使用したテキスト、資料、事前学習ノート等を活用すること。									
留意点	健康管理には十分に留意すること。									

科目名	老年看護学実習		科目ナンバリング	N-NP 2-42. H N	単位数 時間	4単位	対象 学年	3年～4年	開講 学期	3年後期～ 4年前期
	看護実践科目	必修	科目コード	N31008		180時間				
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	佐藤 厚子、小野 綾 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 高齢者の身体面・精神面・社会面を含めた全体像を捉え、必要な看護を実践できる能力を養う。高齢者を継続的に支援していくための病院との連携、地域社会との連携、多職種間の連携の重要性を理解し、支援体制を学ぶ。高齢者支援のために必要な資源や環境を理解する。実習を通して老年観、倫理観、看護観、態度を培う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4, 5, 6に関連する。 カリキュラムポリシーの3, 5, 8, 9に関連する。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者を受け持ち身体的・精神的・社会的な面から全体像を捉える事ができる。</li> <li>2. 高齢者の自立した生活を支援するための看護の役割を理解することができる。</li> <li>3. 受け持ちケースについて、その人らしい生活を送るための個別的看護が援助できる。</li> <li>4. 施設での多職種との連携の重要性を理解し、自身もチームの一員として積極的に行動できる。</li> <li>5. 高齢者や家族、施設スタッフとの関わりを通して、自身の老年観、倫理観、看護観を培い、レポートする事ができる。</li> <li>6. 専門職としての自覚を養い、高齢者を尊重し尊厳を守る態度を身につけることができる。</li> </ol>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備考	
	臨地実習ガイダンス		臨地実習の全体オリエンテーション(臨地実習開始前) 老年看護学実習の概要の説明、事前学習の説明						全員出席	
1	オリエンテーション		学内オリエンテーション、技術確認 実習の進め方、留意事項、実習施設の概要について説明						実習グループ全員 出席	
2	受け持ちケースの看護		高齢者を1名受け持ち、看護過程を展開する。 カンファレンスは学生主体で行う。 詳細は老年看護学実習要項に示す。						実習	
3	受け持ちケースの看護								実習	
4	受け持ちケースの看護								実習	
5	受け持ちケースの看護 施設内カンファレンス								実習	
6	受け持ちケースの看護振り返り		受け持ちケースの看護内容を振り返り、省察する。 看護過程絵展開の発表及び評価。						PBL	
7	受け持ちケースの看護振り返り								PBL	
8	グループ演習		実習で学んだことをテーマに沿ってまとめ全員が発表を行う。						グループワーク ディスカッション	
9	グループ演習									
10	全体まとめ								ディスカッション	
評価 方法 及び 評価 基準	4/5以上の出席者を対象に老年看護学実習評価基準により評価する。									
課題等	老年看護学実習要項を参照してください。									
事前事後 学修	老年看護学実習要項を参照してください。									
教材 教科書 参考書	老年看護学の講義で使用した教科書と参考資料、人体の構造の講義で使用した教科書、人体の機能の講義で使用した教科書、各自の自己学習資料									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設利用者の健康を守るため、咳嗽や発熱がある学生は実習出来ない。そのため自己健康管理が必要である。</li> <li>2. 事前学習と実習中の学習を十分に行うこと。</li> <li>3. 主体性をもって実習を行うこと。</li> <li>4. 身だしなみを整えること</li> <li>5. 真摯な態度で臨むこと。</li> </ol>									



科目名	小児看護学実習		科目ナンバリング	N-NP 2-43. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年～4年	開講 学期	3年後期～ 4年前期
			科目コード	N31010		90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	齊藤 史恵 木田 優子 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	健康増進や成長発達の促進の観点から、あらゆる健康段階レベルにある小児とその家族に対して、健康回復と健康の保持増進への看護援助を実践できるための基礎的知識・技術・態度の修得を目指す。 (ディプロマポリシー1, 2, 3, 4, 5, 6に関連し、カリキュラムポリシー3に関連している)									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児各期の成長・発達過程を理解することができる。</li> <li>2. 小児に親しみ、小児をひとりの人として尊重し、権利を持つ存在であることを理解できる。</li> <li>3. 成長発達促進の観点から、小児各期に応じた適切な保育を行うための知識と技術を習得できる。</li> <li>4. 小児の発達段階や疾患の状態に応じた、小児にふさわしい環境について理解できる。</li> <li>5. 小児の主な疾患および諸症状と、疾患が小児に及ぼす影響を理解できる。</li> <li>6. 小児の発達段階および疾患の状態に応じて適切な看護を計画・実践・評価できる。</li> <li>7. 小児と家族の QOL の維持・向上を目指した援助について多角的に考察できる。</li> <li>8. 小児の医療看護における倫理的課題および看護職者として必要な職業倫理について考え判断するための基礎的能力を身につけ、実践できる。</li> <li>9. 小児とその家族が抱える問題の解決にあたり、多職種との連携と協働、継続看護の特徴とその役割を理解できる。</li> </ol>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)					備 考		
	臨地実習ガイダンス		臨地実習全体のオリエンテーション (臨地実習開始前) 小児看護学実習の概要の説明、事前学習を行う。					全員出席		
1	保育所実習オリエンテーション (学内)		学内オリエンテーション 実習の進め方、留意事項、実習施設の概要について説明					実習グループ全員出席		
2	保育所実習 (保育所)		1、施設オリエンテーション 2、保育所の日課にしたがって、担当保育士の指導のもとに保育に参加し、子どもについての理解を深める。							
3	保育所実習、実習のまとめ (保育所)									
4	保育所実習 (学内)		保育に関連した課題 (グループワーク) と作成 成長発達段階にある地域の子どもの現状について理解を深める					グループワーク		
5	保育所実習 (学内)		課題の発表					プレゼンテーション		
6	病院実習 (学内、病院)		技術チェック (学内)、施設オリエンテーション (病院)							
7	病院実習 (病院)		1、原則として入院している患児1名を受け持ち、看護過程を通して看護の方法・実践を学ぶ。 2、外来を受診する小児と家族に対する看護の特徴および役割を学ぶ							
8	病院実習 (病院)									
9	病院実習 (病院)									
10	病院実習、実習のまとめ (病院、学内)		小児看護学実習でのまとめ、実習の評価を発表する。							
			○その他、詳細については、小児看護学実習要項を参照							
評価方法及び評価基準	保育所実習、病院実習合わせての出席 (5分の4以上) 小児看護実習評価表に基づき必要な知識、根拠ある技術、実習態度を総合的に評価する。									
課題等	事前学習課題については、あらかじめ提示してあるものをもとに実習を行う施設、病院に合わせて学習すること									
事前事後学修	実習初日に、小児看護に必要な看護技術のデモンストレーションを実施していただきます。準備をしっかり行い臨んでください。看護過程展開がスムーズに行えるように授業で学習してきたこと (発達、症状看護、疾患看護) を中心に頭に入れてきてください。準備学習時間の目安: 1日あたり1時間以上									
教材教科書参考書	授業で使用したテキスト、プリントなどの資料を活用すること。 実習に関連した文献は、各自で探し実習場に持参してください。									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 実習にあたって最も重要なことは感染予防と健康管理である。小児期の感染症について十分に学習して知識を深めておくとともに、感染予防行動を確実に身につけて臨む。自己の健康管理を徹底する。体調不良時は必ず申告すること。冬期の実習においてはインフルエンザなどの予防接種を済ませてから実習に臨むこと (接種していない人でも外来で実習することになります。)</li> <li>② 小児感染症の抗体価が低く予防接種を受けていない場合、実習は認められないのであらかじめ対応しておく。</li> <li>③ 実習生にふさわしい態度 (対人面・学習面) を心がける。</li> <li>④ 主体的に自己の実習内容と到達目標を設定すること。保育所前には、基礎的学力のチェックと病院実習の前には、学生による技術のデモンストレーションを行う。学習が足りないと判断された場合、実習場に行くことはできない。</li> </ol>									

科目名	母性看護学実習		科目ナンバリング	N-NP 2-44. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年～4年	開講 学期	3年後期～ 4年前期
			科目コード	N31012		90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬 富士子 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 母性看護の対象（狭義での対象として、妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族）の特性を理解し、母子ともに健康に過ごせるように、母子とその家族に対する看護の基礎的な実践能力を養う。 退院後や地域での継続した育児支援を理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1. 2. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11カリキュラムポリシーの6Iに関連する。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦と胎児の健康状態を理解し、妊娠期が正常に経過していることが理解できる。</li> <li>2. 分娩各期の経過から産婦の特徴を理解し、必要な看護がわかる。</li> <li>3. 褥婦が回復し、心身の変化に適応していく過程を理解するとともに、健康状態をアセスメントし看護過程展開ができる。</li> <li>4. 新生児が胎外生活に適応していく過程が理解するとともに、健康状態をアセスメントできる。</li> <li>5. 退院に向けて諸条件を整え、家族を含めた指導の必要性が理解できる。</li> <li>6. 母子にかかわる諸制度と母子保健医療チームの連携について理解できる。</li> <li>7. 退院後や地域での継続した育児支援を理解できる。</li> <li>8. 生命の尊厳について学びを深めることができる。</li> </ol>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）						備 考	
	臨地実習ガイダンス		臨地実習全体のオリエンテーション 事前学習について						実習	
1	オリエンテーション		学内で母性看護学実習オリエンテーション 実習の概要・進め方						実習	
2	施設オリエンテーション、 受け持ちの母子の情報収集①		産褥期の母子の看護を中心に、分娩期の看護などを行う。						実習	
3	受け持ちの母子の看護②								実習	
4	受け持ちの母子の看護③								実習	
5	受け持ちの母子の看護④								実習	
6	勉強会主催の準備								地域の育児支援勉強会主催準備する。	
7	地域の育児支援		地域における継続した育児支援を学ぶ。						実習	
8	マタニティクラス企画準備 カンファレンス		マタニティクラス企画準備、 カンファレンス、妊婦健康診査情報収集						実習	
9	妊婦健康診査		妊婦1名を受け持ち妊婦健康診査を理解できる。						実習	
10	マタニティクラス運営、 実習まとめ報告		マタニティクラス運営と「母性看護にかかわる看護職の仕事」 をテーマとし、話し合いイメージ図作成し報告する。						実習	
評価 方法及び 評価 基準	<p>4/5以上の出席が評価の対象となります 母性看護学実習評価に基づき、実習目標と実習態度に対する評価 45% 事前学習 10% 毎日の記録、看護過程展開などの記録物 45%</p>									
課題等	事前学習課題を提示するので作成する 事前に技術チェックを行う									
事前事後学修	事前に技術チェックを合格できるように練習すること、事前学習の知識の再確認をしておくこと 受け持ち時は母子の看護過程展開した記録をして提出する。									
教材 教科書 参考書	教科書および授業で提示した教材や資料等									
留意点	グループで協力し合い、学びを共有する。 体調管理に留意して実習に臨む。									

科目名	精神看護学実習		科目ナンバリング	N-NP 2-45. H N	単位数	2単位	対象 学年	3年～4年	開講 学期	3年後期～ 4年前期
			科目コード	N31014	時間	90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	菅原大輔(実務経験のある教員) 高橋義孝(実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>精神保健上の問題を持っている人々を理解し、生活上に表れている障害とその心理状態をとらえ、治療環境をいかに生かしていくか、その治療環境を構成するメンバーの一人としてどのように関わるかを学ぶ。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1・2・3・5・6に関連し、カリキュラムポリシーの6・8・9に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1、精神に障がいを持つ人々のケアをととして精神看護の対象を理解する。</p> <p>2、精神に障がいを持つ人々が心の健康を回復するプロセスを理解する。</p> <p>3、精神に障がいを持つ人々が社会復帰するための支援方法について理解する。</p> <p>4、精神に障がいを持つ人々との関わりをととして自己洞察できる。</p> <p>5、精神に障がいを持つ人の特徴を理解し、状態に応じた適切な計画および実践する能力を養う。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
	臨地実習ガイダンス			臨地実習全体のオリエンテーション（臨地実習開始前） 精神看護学実習の概要および事前学習の説明						
1	オリエンテーション			学内オリエンテーション 精神看護学実習要項に沿って実習の進め方、留意事項を説明する。また事前学習における知識確認を個別に行う。				反転学習		
2	施設オリエンテーション 受け持ち患者の看護			<p>1、病棟実習では患者を受け持ち、看護過程を展開する。 （基本情報の収集、情報の分析と解釈、問題点の抽出、問題点の優先順位の決定、看護計画の立案、看護計画の実践と評価）</p> <p>2、精神科デイケアでは利用者に関わり、生活上の困難について考察する。またメンバーとともに治療プログラムに参加し、その意義について考察する。</p> <p>3、入院患者や利用者に対する専門多職種役割を知り、それが社会復帰にどのように影響しているのか考察する。</p> <p>4、入院患者や利用者の生活上の強み（ストレンクス）を考察し、ケアに活かす。</p>				フィールドワーク		
3	受け持ち患者の看護							フィールドワーク		
4	受け持ち患者の看護							フィールドワーク		
5	受け持ち患者の看護							フィールドワーク		
6	受け持ち患者の看護							フィールドワーク		
7	受け持ち患者の看護							フィールドワーク		
8	受け持ち患者の看護							フィールドワーク		
9	受け持ち患者の看護			フィールドワーク						
10	学内カンファレンス			学生は受け持ち患者の基礎情報と実際の看護について口頭で発表する。質疑応答を繰り返しながら発表し学生間で情報共有ができるようにする。				ディスカッション		
評価 方法 及び 評価 基準	看護過程、援助関係、倫理的態度、実践態度、患者や利用者との関わりを網羅した「精神看護学実習評価表」にしたがって評価する。									
課題等	実習の記録物（受け持ち患者の看護過程、レポート、日々の記録など）は毎日更新すること。									
事前事後 学修	精神看護学実習要項に記載している事前学習内容に沿って実習の準備を進める。学習時間の目安は1日あたり30分以上。									
教材 教科書 参考書	精神看護学概論・精神看護方法論・精神看護援助論で使用した教科書および資料を活用する。 精神看護学実習に関連する自己学習資料を活用する。									
留意点	<p>1、記録物は、迅速かつ丁寧に仕上げ、自分の援助体験をもとに意見交換と記録ができるようにすること。</p> <p>2、実習中は主体的に行動できるよう事前学習を十分に行うこと。</p>									

科目名	在宅看護実習		科目ナンバリング	N-NP CT 2-56. H N	単位数	2単位	対象 学年	3年～4年	開講 学期	3年後期～ 4年前期
			科目コード	N31018	時間	90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田 まり子、對馬 明美 (実務経験のある教員)				授業 形態	実習	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	【授業の主旨】									
	地域社会で展開されている在宅看護活動の特徴を学ぶ。 訪問看護ステーションを利用する療養者及び家族のニーズや健康状態のアセスメントを行い、必要な援助方法を学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2・3・4・5・6と、カリキュラムポリシーの4・5・6・7に関連している。									
到達 目標	1. 在宅療養者とその家族の特徴と健康及び生活に対するニーズに関連づけて理解できる。 2. 在宅療養者とその家族の健康の保持・増進、疾病予防に向けた日常生活の援助が実践できる。 3. 在宅療養者の障害や健康状態をアセスメントし、対象に応じた援助が実践できる。 4. 在宅療養者を取り巻く保健・医療・福祉の関係機関と現状が理解できる。 5. 保健・医療・福祉の関係機関や職種にチームメンバーとして参加し協働することの重要性が理解できる。 6. 在宅療養者とその家族を対象とする看護活動の意義と責任が理解できる。 7. 療養者とその家族の意思決定を尊重し、尊厳を守る態度を身につける。									
	<b>授 業 計 画</b>									
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	臨地実習ガイダンス		臨地実習全体のオリエンテーション 在宅看護実習の概要の説明						全員出席	
第2回	オリエンテーション		学内オリエンテーション 事前学習の口頭試問、在宅看護技術の自己学習の確認						各実習グループ毎 全員出席	
第3回	施設オリエンテーション 受け持ちケースの決定と情報整理		施設オリエンテーション 受け持ちケースの決定・情報収集・アセスメント						実習	
第4回	受け持ち・同行訪問ケースの看護		受け持ち・同行訪問ケースの看護（ケースの概要を情報収集・アセスメントし、訪問目的に応じた看護の実施・評価を行う）						実習	
第5回	受け持ち・同行訪問ケースの看護		受け持ちケースにおいては、訪問目的を考慮し、実習期間内で実施可能な看護計画案を立案する。						実習	
第6回	学内実習		受け持ちケースの看護計画の作成と援助方法の自己訓練、 中間カンファレンスの進行の検討・資料作成						実習	
第7回	学内実習（中間カンファレンス）		受け持ちケースの看護計画の作成と援助方法の自己訓練、 中間カンファレンスの実施・評価						実習	
第8回	受け持ち・同行訪問ケースの看護		受け持ち・同行訪問ケースの看護（ケースの概要を情報収集・アセスメントし、訪問目的・計画に応じた看護の実施・評価を行う）						実習	
第9回	受け持ち・同行訪問ケースの看護		受け持ち・同行訪問ケースの看護（ケースの概要を情報収集・アセスメントし、訪問目的・計画に応じた看護の実施・評価を行う）						実習	
第10回	受け持ち・同行訪問ケースの看護		受け持ち・同行訪問ケースの看護（ケースの概要を情報収集・アセスメントし、訪問目的・計画に応じた看護の実施・評価を行う）						実習	
第11回	学内実習		最終カンファレンス（実習目標の達成状況・実習姿勢等自己の学びを 発表し、相互の学びを深める）						実習	
第12回			※カンファレンスはカンファレンステーマを決め、司会、記録係を決めて行 う。中間カンファレンス資料は前日に配布し、各自が問題意識を持って参加す る。						実習	
第13回										
第14回										
第15回										
評価 方法 及び 評価 基準	4/5以上の出席者につき、在宅看護実習評価表に基づき、知識・技術・態度など総合的に評価する。									
課題等	実習要項事前学習の項を参照し、知識の復習・技術の自己練習をして臨む。									
事前事 後学習	実習要項事前学習の項を参照し、知識の復習・技術の自己練習をして臨む。実習終了後、実習目標に沿って実習の学びに ついてレポートにまとめ実習記録に綴り提出する。									
教材 教科書 参考書	授業で使用したテキスト・プリント・自己学習ノート(実習事前課題) などを実習資料として整理し活用すること。									
留意点	1. 在宅看護論・ケアマネジメント論・在宅看護方法論。在宅看護援助論を修得していること。 2. 実習にあたって最も問題となるのは感染予防と健康管理である。在宅における感染予防行動を確実に身につけて臨む。 3. 療養者・家族の生活の場への訪問マナーを守り、実習生にふさわしい態度（対人面・学習面）を心がける。 4. 事前学習を十分に行うこと。									

科目名	看護統合実習		科目ナンバリング	N-PH 2-47. HN	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	4年前期
			科目コード	履修登録届参照		90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	教授・准教授・講師・助教・助手				授業 形態	実習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>看護実践分野の実習を踏まえ、複数の対象の看護に必要な知識と技術を統合的に体験し、より実務的な看護実践能力（看護技術における判断力、看護管理能力、外来や地域との連携、継続看護など）と、チーム医療における看護職の役割とし多職種連携のあり方を理解する。また、看護専門職として必要な倫理観や職業観を養うとともに、探求課題を持ち、自主的に学ぶ体験を通して、自己研鑽する能力を高める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3、6に関連し、カリキュラムポリシーの5に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的に自己の探求課題に取り組み、自己研鑽する能力を高める。</li> <li>2. 科学的根拠に基づいて、計画、実施、評価する看護実践能力を養う。</li> <li>3. 実務に即した実習を行い、質の多寡に看護を実践するプロセスを理解できる。</li> <li>4. 医療チームにおける看護職の役割を認識し、関連職種との連携・協働の必要性を理解できる。</li> <li>5. 看護専門職として必要な職業観と倫理観を培う。</li> </ol>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容						備 考
	【統合実習の流れ】									
1	看護統合実習ガイダンス			看護統合実習全体のオリエンテーション						
2	領域別オリエンテーション			看護統合実習領域別オリエンテーション						
3	事前学習			情報収集・実習計画の検討						
4	統合実習の開始			<p>実習施設オリエンテーション 情報収集・実習計画の立案</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の対象に対し、優先度を判断し適切な看護を実践する。</li> <li>2. 実習を行う病院・施設での看護体制を理解し、専門職としての自覚を持って看護を実践する。</li> <li>3. 看護職と関連する多職種との連携の場に参加して各専門職の役割を理解し、チームアプローチにおいて看護職が果たす役割とその実際を知る。</li> <li>4. 自ら実習計画を立案し、自己の看護実践について、客観的な振り返りを行う。</li> </ol>						グループワーク ディベート プレゼンテーション フィールドワーク
5	最終カンファレンス			最終カンファレンス（実習目標の達成状況・実習姿勢等自己の学びを発表し、相互の学びを深める）						
	○原則として、実習中の中間にカンファレンスを実施（前半の振り返りと後半への課題を明確にする）			○カンファレンスはテーマを決め、司会、記録係りを決めて行う。資料は予め配布し、各自が問題意識を持って参加する。						
評価方法及び評価基準	4/5以上の出席者につき、看護統合実習評価表に基づき、知識・技術・態度など総合的に評価する。									
課題等	実習要項事前学習の項を参照し、知識の復習・技術の自己練習をして臨む。									
事前事後学修	実習要項事前学習の項を参照し、知識の復習・技術の自己練習をして臨む。実習終了後、実習目標に沿って実習の学びについてレポートにまとめ実習記録に綴り提出する。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疑問は、教科書にて確認しながら進める。</li> <li>・ 授業で使用したテキスト・プリント・自己学習資料を活用する。</li> </ul>									
留意点	事前学習を十分に行い、主体的に実習に臨むこと。									

科目名	公衆衛生看護管理論		科目ナンバリング	N-PH NI 4-03. P P	単位数 時 間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N40004		30時間				
区分	看護実践科目	保健師必修	担当者名	中尾 八重子、川村 泰子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 地域特性を踏まえ、コミュニティで生活するあらゆる発達段階や健康レベルの人々と、対象集団全体の健康増進を図るための公衆衛生看護管理機能を学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1、4、6に関連し、カリキュラムポリシー教育課程の4に関連している</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護管理の目的と特徴を説明できる。</li> <li>2. 公衆衛生看護活動を支えるケアシステムを理解し、必要な社会資源を説明できる。</li> <li>3. 具体的な公衆衛生看護管理の機能とそのための活動を記述できる。</li> <li>4. 公衆衛生看護活動における事業・業務管理の考えかたと方法を説明できる。</li> <li>5. 公衆衛生看護活動における個人情報の管理と方法を説明できる。</li> </ol>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容（授業時間外の学修を含む）					備 考	
第1回	公衆衛生看護活動の構造			地域の把握と健康課題、事業計画、保健師の役割						
第2回	公衆衛生看護活動を支える組織と制度			公衆衛生および公衆衛生看護活動の組織とその特徴、ヘルスプロモーションと健康政策					グループディスカッション	
第3回	公衆衛生看護管理とは			公衆衛生看護管理活動の定義と目的、特徴						
第4回	公衆衛生看護管理の基本となるもの			公共性、住民の権利保障、職業倫理						
第5回	地域管理（1） 既存資料の収集と分析及び活用			既存資料の利用目的、活用方法、情報のアセスメント 演習：地域の特徴の把握					グループワーク	
第6回	地域管理（2） 必要な資料の収集と分析及び活用			必要な資料とその収集、情報のアセスメント 演習：地域の健康課題の抽出					グループワーク	
第7回	地域管理（3） 人々の生活や健康を支える社会資源			健康課題解決のための計画立案 演習：必要な社会資源と支援内容					グループワーク	
第8回	地域管理（4）			演習：資料収集、情報のアセスメント、支援内容のまとめ プレゼンテーション					ディスカッション ディベート プレゼンテーション	
第9回	事業運営・業務管理（1） マネジメントサイクル			PDCA（Plan-Do-Check-Action）モデル “住民ニーズ”を計画づくりへ反映する一連のプロセス						
第10回	事業運営・業務管理（2） 企画書と事業評価			活動や事業実施までのプロセス 演習：企画書作成、事業評価					グループワーク	
第11回	事業運営・業務管理（3） 事例検討			事例検討の意義と方法					グループワーク	
第12回	事業運営・業務管理（4） 事例検討			演習：事例検討の実際					グループワーク	
第13回	情報管理			保健師活動で扱う情報の特徴、記録作成の基礎的知識 演習：記録の質を高めるための書き方						
第14回	組織運営・管理、予算管理			組織としての活動、予算の確保と執行						
第15回	人事管理・人材育成			現任教育、新人保健師の到達目標						
評価方法及び評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 2/3以上の出席者につき、授業の参加状況、演習（地域管理）、定期試験等から総合的に評価</li> <li>2) 授業参加状況：10%</li> <li>3) 課題（地域管理）：30%</li> <li>4) 定期試験：60%</li> </ol>									
課題等	レポートおよび感想シート等は、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことをすすめる。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書：平野かよ子編 最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論第4版 メジカルフレンド社 2021 ISBN978-4-8392-2183-6</li> <li>・参考図書：厚生統計協会 国民衛生の動向. 2022/2023</li> </ul>									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 既習科目の「公衆衛生看護学概論」や3年次で学んでいる「公衆衛生看護活動」と関連付けて主体的に学習すること。</li> <li>2) 講義の妨げになる行為、学則や社会常識に反するような言動、ルール違反などは、厳しく対処する。</li> </ol>									

科目名	対象別公衆衛生看護活動論		科目ナンバリング	N-PH NI 4-04. P P	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30054		30時間				
区分	看護実践科目	保健師必修	担当者名	川村泰子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 公的ヘルスケアサービスの中で機能する看護職が、人々の健康・生活を護るための、看護活動の考え方や方法を学ぶ。また、人々の健康及び生活の現状と、それに関連する各種関係法規、施策、社会資源等を、対象別に体系的に学ぶ。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1、2、3、4、6に関連し、カリキュラムポリシー教育課程の3、4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) コミュニティに生活する人々の、健康に寄与する看護の活動方法と重要となる考え方を理解することができる。 2) 人々の健康・生活の現状を、地域特性、対象特性をふまえて理解し、今日的健康課題を考察することができる。 3) 人々の健康・生活に関連する各種法規、施策、社会資源等を理解することができる</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	ライフサイクルと公衆衛生看護活動		ライフサイクルにおける保健活動の実際 思春期～高齢期の発達段階と対象への接近							
第2回	次世代を育むための活動（1）		我が国の切れ目のない母子保健施策の現状と今後の展望							
第3回	次世代を育むための活動（2）		母子保健活動の実際						PBL	
第4回	次世代を育むための活動（3）		母子保健活動の実際～児童虐待						PBL	
第5回	次世代を育むための活動（4）		健康上のリスクを持つ母子への支援～障害児						レポート	
第6回	地域の健康づくり（1）		成人期にある人々の健康と生活							
第7回	地域の健康づくり（2）		成人期の人々の健康と保健師活動～保健・医療・福祉の連携と予防活動							
第8回	地域の健康づくり（3）		社会資源の開発と実際～セルフ・ヘルプ・グループ（1）							
第9回	地域の健康づくり（4）		社会資源の開発と実際～セルフ・ヘルプ・グループ（2）演習						グループワーク プレゼンテーション	
第10回	リスクを抱える人々への保健活動（1）		精神保健活動の実際							
第11回	リスクを抱える人々への保健活動（2）		対象理解～健康のとらえ方							
第12回	リスクを抱える人々への保健活動（3）		精神障がい者の社会復帰・地域生活支援						レポート	
第13回	健康危機管理状況にある人々への支援（1）		感染症の動向（covid-19、結核等）						PBL	
第14回	健康危機管理状況にある人々への支援（2）		感染症：結核の制度、疾病管理（結核・HIV、covid-19）						グループワーク	
第15回	歯科保健活動		生涯を通じた歯科保健活動の実際							
評価方法及び評価基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5%を加算する。 3) 課題（レポート）：20% 3) 定期試験：75%</p>									
課題等	感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。									
教材教科書参考書	<p>教科書：対象別公衆衛生看護活動 4版 医学書院 2022 ISBN978-4-260-03187-5 参考図書：厚生統計協会：国民衛生の動向。2021/2022</p>									
留意点	<p>1) 既習科目の「公衆衛生看護学概論」や3年次で学んでいる公衆衛生看護関連の科目と関連付けて主体的に学習する。 2) ニュース等を毎日視聴し、社会で起きていることに関心を持つことが不可欠である。 3) コロナ関連のニュースは、暮らしの場でどのようなことが起きているのかを理解する。</p>									

科目名	学校保健論		科目ナンバリング	N-PH NI 4-06. P P	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30056		15時間				
区分	看護実践科目	保健師必修	担当者名	中尾 八重子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 学校という組織の中で、学校教育の目的達成のために機能している「学校保健」と、そこでの養護教諭の役割について学ぶ。「学校保健」が、学校教育を円滑に進めるための心身の条件としてだけでなく、学校教育の目的の一つとして取り上げられ、教育的配慮のもとに展開されることについて理解を深める。さらに、学校保健の変遷を踏まえながら、現状や課題について考察する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p>									
到達目標	<p>1. 学校における人々の健康に関する行政体系・法体系・制度・システムを理解する。 2. 学校における人々の健康の実態を把握し、健康課題を理解できる。 3. 学校における公衆衛生看護活動の実際を理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容（授業時間外の学修を含む）					備考	
第1回	学校保健・看護の動向			学校保健の理念と目的、歴史と現状を理解する。						
第2回	学校保健の制度とシステム			学校保健安全の構成・内容・法規・システムを理解する。						
第3回	学校保健活動（1）			◆演習1：「学校保健の対象の健康」に関するグループワークと発表					ディスカッション プレゼンテーション ディベート	
第4回	学校保健活動（2）			学校保健の対象と健康課題を理解する。						
第5回	学校保健活動（3）			養護教諭の職務を理解する。					ディスカッション プレゼンテーション ディベート	
第6回	学校保健活動（4）			保健室の機能を理解する。						
第7回	学校安全および危機管理			学校環境衛生と学校安全管理を理解する。						
第8回	学校保健における多職種連携			学校保健における他機関・多職種連携の実際を理解する。						
評価方法及び評価基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。 3) 定期試験：試験結果は満点を95%として評価する。</p>									
課題等	レポートおよび感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。									
教材教科書参考書	<p>教科書：対象別公衆衛生看護活動：医学書院. 2018 ISBN978-4-260-03187-5 参考図書：①厚生統計協会：国民衛生の動向. 2022/2023</p>									
留意点	<p>1) 授業で紹介された文献を読み、自己学習を進める。 2) 実際の保健医療に関するニュースなどに関心を持ち、学んだことと関連しながら理解を深める。 3) 他の科目で学んだことと関連付けながら、理解を深める。</p>									



科目名	産業保健論		科目ナンバリング	N-PH NI 4-07.P P	単位数	1単位	対象学年	3年	開講学期	前期
			科目コード	N30057	時間	15時間				
区分	看護基礎科目 アクティブラーニング	保健師必修 有	担当者名	川村 泰子 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>少子高齢化に伴い生産年齢人口の減少も予測されている。働く人々の健康の保持増進や快適な職場づくりのために、産業保健分野ではどのような看護活動が行われているの理解する。また、歴史的な変遷を踏まえ、産業保健専門職が果たす役割を考える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4, 6に関連し、カリキュラムポリシーの3, 4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 産業の場における健康に関する行政体系・法体系・制度・システムが理解できる。</p> <p>2) 産業の場における人々の健康の実態を把握し、健康課題が理解できる。</p> <p>3) 産業の場における看護活動の実際が理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	産業保健の・産業看護の動向			産業保健の役割、歴史と現状 (DVD)産業保健						
第2回	産業保健の制度とシステム			産業保健に関わる法律と関係する社会資源						
第3回	産業保健活動1			産業保健の対象と活動の場				グループワーク		
第4回	産業保健活動2			産業保健の基本と産業看護活動						
第5回	産業保健活動3			変化する社会における労働と健康課題						
第6回	産業保健活動4			職場における健康管理と看護職の役割						
第7回	産業保健活動の場と健康課題			産業の場における健康課題とこれからの産業保健を考える				グループワーク ディスカッション		
第8回	精神保健活動の実際と今後の課題5			産業保健と地域保健の連携						
評価方法及び評価基準	<p>1) 2/3以上の出席者について、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて、総合的に評価する。</p> <p>2) リフレクションペーパー：すべての授業終了後に提出することで、5点を加算する。</p> <p>3) 定期試験：試験結果は満点を95%として評価する。</p>									
課題等	レポートおよびリフレクションペーパーは返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書を読んでください。									
教材教科書参考書	<p>教科書：対象別公衆衛生看護活動 医学書院 2022 ISBN978-4-260-03187-5</p> <p>参考図書：厚生統計協会 国民衛生の動向 2021/2022</p> <p>随時、資料の配布や参考図書を紹介する。</p>									
留意点	<p>1) 授業で紹介された文献を読み、主体的に学修をする。</p> <p>2) 社会の動きに関心を持ち、ニュースなどを読み考え、学んだことと関連させながら理解する努力は不可欠です。</p> <p>3) 他の科目で学んだことと関連させながら、理解する。</p>									

科目名	ヘルスプロモーション論		科目ナンバリング	N-NP NI 4-05. P P	単位数 時 間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30055		15時間				
区分	看護実践科目	保健師必修	担当者名	中 尾 八重子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨]  近年、我が国において重視されているヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康づくり活動について学習する。  自治体の具体的な実践活動をもとづいて、理解を深める。  [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]  ディプロマポリシーの2、3、4、5、6、7に関連し、カリキュラムポリシー教育課程3、4に関連している。</p>									
到達目標	1) ヘルスプロモーションの考え方を説明できる。 2) Health for All の実現に向けた健康政策の進め方や公衆衛生行政の役割を説明できる。 3) 日本における健康づくりの変遷と実際を記述できる。 4) 自らが考える地域の健康づくりを計画し、発表することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	ヘルスプロモーションとは		ヘルスプロモーションの基本的な考え方、背景、戦略							
第2回	健康教育とヘルスプロモーション		健康教育の理念・変遷・方法							
第3回	健康増進		疾病予防 早期発見・早期治療 リハビリテーション 健康増進法の目的・基本方針							
第4回	日本における健康づくり		日本の健康づくりの変遷 健康日本21							
第5回	地域の健康づくり（1）		演習：自らが考える地域の健康づくり						グループワーク	
第6回	地域の健康づくり（2）		ヘルスプロモーション実践の方法と考え方 アクションリサーチ、アドボカシー（動画）						ディスカッション	
第7回	地域の健康づくり（3）		ヘルスプロモーション実践のための考え方と理論 認知的スキル、ヘルスピリーフモデル、計画的行動理論（動画）						ディスカッション	
第8回	地域の健康づくり（4）		演習：グループで考えた地域の健康づくりの発表						プレゼンテーション ディスカッション	
評価方法及び評価基準	1) 2/3以上の出席者につき、授業の参加状況、演習、定期試験等から総合的に評価。 2) 授業の参加状況：10% 3) 演習：30% 4) 定期試験：60%									
課題等	レポートおよび感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことをお勧めする。									
教材教科書参考書	教科書：公衆衛生看護技術第5版、医学書院、2023 ISBN978-4-260-05002-9 参考図書：国民衛生の動向、厚生労働統計協会、2022/2023 授業の中で、随時、参考図書を紹介する。									
留意点	1) 授業で紹介された文献などの自己学習が重要である。 2) 毎日のニュースを視聴し、授業と関連して理解を深める。 3) 他の科目で学んだことと関連させて、理解を深める。									

科目名	公衆衛生看護学実習		科目ナンバリング	N-PH 4-05.P P	単位数 時間	5単位 225時間	対象 学年	4年	開講 学期	4年前期	
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	保健師必修 有	科目コード	N31016		担当者名	中尾 八重子 ・ 川村 泰子 (実務経験のある教員)		授業 形態	実習	複数
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>地域および地域に生活する人々を対象に行う公衆衛生看護活動の機能や役割について理解を深め、人々の健康状態のアセスメント、看護計画、実践、評価の看護過程を通して保健師活動の実際を学び、実践できる能力を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3、4、5、6、7に関連し、カリキュラムポリシーの3、5、6、7に関連している。</p>										
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護活動の中心的な機関である保健所と、対人サービスの拠点である市町村の機能と役割を理解できる。</li> <li>2. 地域の社会的、文化的特性を踏まえた健康状態をアセスメントし、健康問題を解決するために必要な情報、方法について考える事ができる。</li> <li>3. 活動計画に沿った、地域の人々の健康問題に向けた援助とその活動評価について理解できる。</li> <li>4. 個人・家族・集団・組織における対象の多様なニーズを理解し、健康増進、疾病予防に向けた看護活動が実施できる。</li> <li>5. 対象者への看護活動を展開するために必要な社会資源の活用と地域ケアシステムの構築について理解できる。</li> <li>6. 健康危機管理や公衆衛生看護管理機能を通して、保健活動の効果・効率性や事業化・施策化・政策化について考えることができる。</li> <li>7. 学校保健活動を通して学校生活を支える健康管理のあり方と看護職（養護教諭）の役割について理解できる。</li> <li>8. 事業所で働く人々の健康の保持増進および良好な職場環境を支える産業保健の看護活動について理解できる。</li> </ol>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容						備 考	
	【公衆衛生看護学実習の流れ】										
1	臨地実習ガイダンス			臨地実習全体のオリエンテーション（臨地実習開始前）							
2	公衆衛生看護学実習オリエンテーション			学内公衆衛生看護学実習オリエンテーション 実習の進め方、留意事項、実習施設の概要、事前学習等について説明							
3	保健所実習			青森県内3保健所で実習を行う ※弘前保健所、東地方保健所・上十三保健所・三戸地方保健所 保健所における公衆衛生看護活動の実際を学ぶ（4日間） 実習最終日には各保健所においてカンファレンスを行う 司会、記録は学生が行う。必要に応じて資料を準備する							
4	市町村実習（学内）			実習市町村の地域診断 健康教育指導案の作成							
	市町村施設（市町村）			青森県内7市町村で実習を行う ※黒石市・藤崎町・階上町・深浦町・鱒ヶ沢町・田舎館村・六ヶ所村 市町村における公衆衛生看護活動の実際を学ぶ（10日間）							
	市町村カンファレンス （中間・最終日）			実習施設においてカンファレンスを行う 司会、進行は学生が行う。必要に応じて資料を準備する							
5	産業保健			産業保健の場の見学							
6	最終カンファレンス（学内）			グループワークとプレゼンテーション							
	※詳細については別途提示する										
評価 方法 及び 評価 基準	4/5以上の出席者につき、公衆衛生看護学実習評価表に基づき総合的に評価をする。										
課題等	実習記録・レポートなどは、返却する。 Teamsにより、適宜指示します。										
事前事後 学修	実習で紹介する参考図書は、必ず読むことを勧める。										
教材 教科書 参考書	教科書および授業で提示した教材や資料等										
留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習生にふさわしい態度（対人面・学習面）を心がける。実習施設によっては、現地に滞在して実習を行うため、実習時間以外の行動においても社会人としてのマナーを守る。</li> <li>2) グループ単位の行動が多いため、メンバーシップを発揮し、主体的に行動する。</li> </ol>										